

畜産ニュース

◎家畜商講習会各地で開催の予定

昨年11月の家畜商法の改正により、県ではつぎのような予定で37年度の家畜商講習会を開催することになっている。

県畜産課では、家畜商の免許は、この講習を修了した者でなければ受けられないことになっているので、今後の家畜の取引を行なおうという人はもれなく受講するよう望んでいる。

〔開催日時および場所〕

開催月日	時刻	開催場所
5月	8時30分	和気郡熊山町
28日 29日～17時		中央公民館
30日 31日 //		笠岡市 北川小学校
6月		
1日 2日 //		倉敷市新川町 新溪園
4日 5日 //		英田郡美作町 林野高校湯郷校舎跡
6日 7日 //		高梁市松山 高梁家畜市場
13日 14日 //		岡山市三門 三門小学校
15日 16日 //		真庭郡久世町 久世家畜市場
18日 19日 //		新見市高尾 新見家畜市場
28日 29日 //		津山市山下 鶴山館

なお講習を受けようとする者は、受講申請書を農林事務所を経て県知事あて提出することになっている。

◎本年度定期種畜検査始まる

37年度の定期種畜検査が、5月4日の阿哲郡哲多町本郷家畜市場を皮切りに、5月27日まで約1ヵ月間にわたり県下全域で行なわれている。検査は3班に分かれ、農林省中国種畜牧場から係官が来県し、第1班は、阿哲、新見、上房、川上、総社、倉敷地区、第2班は真庭、津山、苫田、久米、勝田、英田地区、第3班は浅口、笠岡、井原、小田、赤磐、御津、邑久、児島地区の種雄畜について実施される。

◎全国家畜保健衛生所業績発表会 県代表に小坂氏

4月6日、第3回全国家畜保健衛生所業績発表会が東京都千代田区霞ヶ関の農林省7階ホールで全国から関係者約500名を集めて開かれ、岡山県からは長浜家畜保健衛生所長であった小坂静夫氏（現美作農林事務所畜産係長）が代表として出席、「家畜の多頭飼育化に伴う家畜保健衛生所のあり方」の業績発表を行なった。

◎近畿・中国緊急防疫会議神戸で開催

近畿、中国ブロック緊急家畜防疫会議はさる4月30日、5月1日の両日、神戸市の中小企業会館で各県衛生主任者、神戸動物検疫所係官などが出席して開かれた。

この会議では今後の共通した家畜伝染病の防疫の徹底について広範囲の協議、報告が行なわれたが、本年度の重的防疫施策としてつぎのような点を取り上げることになった。

豚コレラ防疫＝予防注射の徹底、とくに子豚の市場搬入2週間以前に予防を行なう。また県境で隣接する両県家畜保健衛生所長と府県防疫担当職員の連絡の会議を行なう。

牛の流感予防＝今年は中国地区に多発が予想されるので、とくに和牛を主体にした防疫を行なう。

ひな白痢防疫＝自主防疫の体制を確立して行く、また40日前後の中雛時期から徹底して行なうよう指導する。

なお6月上旬にも、各県の衛生主任者会議を兵庫県朝来郡和田山町の農林省家畜衛生試験場中国支場で開くことになっている。

◎県畜産共進会の開催予定きまる

第18回を数える今年度の県畜産共進会は、このほど地元の詳細が得られ、真庭郡勝山町で9月28日から11月1日まで4日間の予定で開催することになったその他計画はつぎのとおり。

岡山畜産便り1962.05

開催者 岡山県、勝山町

後援 岡山県総合畜産 岡山県酪連

出品予定 和牛 100頭

家畜ならびに頭数 乳牛 50頭

種豚 20頭

ラジオ農業学校畜産関係放送番組

(NHK岡山第2—午前6時40分から7時)

【6月】

- 7 木 経営 これからの畜産経営のあり方(3)
藏知 毅
- 12 火 衛生 家畜の寄生虫をなくするには
石井 敏雄
- 13 水 飼料 飼料作物の病虫害
栗山 光春
- 14 木 養鶏 新しい鶏の病気
大西 務
- 20 水 養鶏 悩まされるコクシジウム
大西 務
- 21 木 養鶏 新しい養鶏経営
出口 孝吉
- 23 土 酪農 乳質改善について
竹原 宏
- 26 火 養鶏 夏のケージ鶏の管理
岩本 敏雄
- 27 水 養鶏 産卵の増加と飼料
出口 孝吉
- 28 木 和牛 和牛と粗飼料(2)
和田 宏
- 酪農 夏の乳牛管理

鶏のロイコチトソン病とは

この病気はロイコチトソンという住血原虫の感染が原因しています。この原虫はニワトリヌカカという体長1mm位の吸血昆虫が中間宿主で、このヌカカが鶏の血液を吸う際に原虫が鶏の体内に入り、さらに赤血球に入って赤血球を破壊し貧血を起します。

この病気は普通6月から10月に発生します。これにかかりますと、幼雛は口から血液を吐いたり、体内で出血を起して高い死亡率をみる事が多くあります。成鶏になりますと死亡するものは殆んどありませんが貧血がはげしく産卵率も40%位に下降します。

治療、予防はいろいろと研究されていますが、まだ不明の点がたくさん残されています。まずこの病気を媒介するニワトリヌカの駆除が必要ですが、くわしい発生場所についても現在研究中です。鶏に低毒性の有機燐剤を撒布しますと効果があり、飼料に0.01%のフラズリドン製剤を混ぜて与えても予防の効果があります。

治療剤もまだ試験の段階でおすすめできるものはありません。

岡 秀行